

## 6. モモ園における復旧の進め方

### 1) 被害状況

主枝上の冠雪によって主枝が折れたり（図53）、雪の沈降とともに第一主枝や側枝が引っ張られ、基部から裂けたり折れたりする場合があります（図54）。



図53 主枝の折損



図54 下段側枝の折損

### 2) 復旧方法

モモは他の樹種に比べ傷に弱く、主幹部や主枝に障害を負った場合は枯死する可能性が高いです。主幹部や主枝の傷の大きさが幹断面積あるいは幹周どちらかの1/3を超える場合は伐採します。従って、図53や図54の場合は思い切って伐採します。軽微な場合は障害部位をきれいに切り落とし、傷口に保護剤を塗布します。

図55のように、側枝基部に亀裂が入った程度であれば修復できる可能性があります。まず、リンゴやブドウと同様に、枝を持ち上げ、被害部位をなるべく密着させます。次に、被害部位をカスガイやボルトで固定し、塗布剤を塗り保護します（図56）。最後に、被害部位を肥料袋等で覆って保護し、傷口の癒合促進を図ります（図57）。肥料袋は傷口のカルス形成が確認されたら外します。



図55 側枝基部の亀裂



図56 傷口の固定



図57 傷口の保護

修復した側枝は弱く、その後も誘引したり支柱を立てたりして、傷口が再び開かないように管理する必要があります。また、傷口周囲に新梢が発生したら、修復した側枝の更新枝として育成し、最終的には修復した側枝は切り落とします。

また、図58のように枝が縦方向に割れている場合は、通導組織の損傷が少なく、養水分の供給が大きく遮断されることはないので、枯死に至る危険性は少ないです。障害部位に塗布剤を塗り、ロープ等で周囲を締め、肥料袋等で表面を覆い保護します（図59）。



図58 縦方向の割れ



図59 傷口の固定と保護

### 3) 被害園地における施肥等について

側枝の損傷や結果枝の欠落が多くみられる場合は、春肥の施用は控えましょう。

根部に野ネズミの食害を受け樹勢が弱まった場合、盛り土や堆肥マルチ等を行って発根を促しましょう。また、生育期間中に過度の乾燥を防止するために適時灌水を実施しましょう。なお、衰弱した樹の樹勢維持には尿素の葉面散布が有効です。展葉後から6月中旬までの間に尿素0.2%液(500倍)を3～4回散布しましょう。

主幹、主枝の裂開、折損被害により植替えを行う場合は、改植障害がみられることがあります。新しく苗木を植え付けする時は、被害樹の抜根後に残った根をていねいに拾い集め、できるだけ植付け場所をづらして定植しましょう。

## 7. セイヨウナシ園における復旧の進め方

セイヨウナシの被害は概ねリンゴに類似しています。このため復旧に当たってはリンゴの項を参考に作業を進めて下さい。